

## 保育のヒント～「科学する心」を育てる～

### 試行錯誤する過程を大切に！／神理幼稚園（福岡県）

子どもたちの遊びは、人やもの・自然と関わることでそのものが楽しくて探索的に思える場面があります。しかし「子どもたちがじっくりと遊びを進める場面」に注目すると、その遊びには目当てやルールなどがあり、思いを実現しようと繰り返す姿が見えてきます。

今回は、仲間とイメージを共有し、思いを実現しようと何日も試行錯誤を重ねた子どもたちの姿をご紹介します。



### ● 乗っても崩れない山を作ろう！／3～5歳児

本園では、絵本を楽しむ時間を大切にしている。今年度は特に、[絵本「ぐりとぐらのかいすいよく」](#)（作：中川季枝子 絵：山脇百合子 出版：福音館書店）をクラスで繰り返し読み、楽しんできた。

#### 遊びに繋がる

- 自分がぐりやぐらの役になったイメージで遊ぶ子どもたちが、青（ぐり）や赤（ぐら）のネックレスを作る。
- 絵本に登場する“うみぼうず”を話題にする子どもたちが“うみぼうず、今なんしよるかねえ？”「手紙書いてみよるか？」と言い手紙を書いた。そして、いつでも手紙を出せるようにクラスにあるポストに投函した。すると、“うみぼうず”から返信があり、絵本にあった「しんじゅとうだい」を作ろうと話題になって、灯台作りの遊びになった。

### ✿ 床上積み木で「しんじゅとうだい」を作る（6月）

#### ● 場面1：今まで作ったことがあるやり方で作ろう

- 「“うみぼうず”大きいけ、灯台も大きくしよう！」「どんな形にする？」「三角？」「山？」「丸く作る？」と、アイデアを出し合い、高く大きく積む時は円柱で積み上げてきた過去の経験から、円柱になる。
- 作る途中で、入り口を作ることになり、円の半分の積み木を取り除いて、半円の形で積み上げた。
- 「なんか、グラグラするね」「こっちの積み木、浮いとるよ！」と、思っていたようにならない様子が気付いた。しかし、それでも高くなるのが楽しくて積み続けていると、とうとう灯台が崩れてしまった。半円では、円柱と違いバランスが悪く、安定感がなくなることに気付いた。
- 入口は、下から潜って入ることにして、その上は円柱に積み上げることにする。



### 保育者の援助

「4本しかない長い積み木。この土台になる長い積み木の使い方に気付けて欲しい」という思いをもち、「一番長い積み木は、この長さなんだね」と、積み木で示し、様子も見守る。

#### ● 場面2：長い積み木<sup>※</sup>からの発見

- 長積み木を使い、長さを均等にしてバランスを考え、置く時も両手で丁寧に置く姿になる。
- 長い積み木の使い方・向きなど試行錯誤しながら作るが、やはり高くなると崩れてしまう。
- 積み木の縦向きや横向きによる置き方の違いに気付き、安定した積み方が分かってくると、「こっち（横向き）になっとる！」「ほんとやん！」と、積み木の向きを意識しながら積み上げる姿になる。
- この積み方にしたことで、入口のある半円の灯台になり、長い積み木は窓になった。



※ 直方体横半分のレンガ型の2倍の長さ

#### ✦ 戸外で「しんじゅとうだい」を作る（6～7月）

#### ● 場面1：海のイメージがぐりとぐらの絵本と結び付く

水溜りがたくさんできた雨上がりの園庭に海のイメージをもった子どもたちは「うわぁー、ここ海みたいに繋がっていくんじゃない？」「そうだね！じゃあ、海を繋げて、泳いだ先をぐりとぐらのレストランにしよう！」と話し、水溜りを砂場まで繋がるようにして、レストランを作った。

こうして、ぐりとぐらのイメージで遊んだことで、「しんじゅとうだい作りたい」という思いが生まれた。「絵本見ながら、作ろう！」「それいいね！」と、子どもたちは砂場の近くに絵本を置いて作り始めた。「雲に届くくらいのおおきさかなあ」「大きくしたいから、たくさん掘ろう」「大きくしたら、中を繋げようよ！」「乗れるくらい大きくしたい」と話し合い、イメージを共有させて灯台を作る。

#### ● 場面2：泥でできるかな

- ある日、雨上がりの園庭で「泥で灯台作れるかなー」「積み重ねたら、大きくなるかねえ？」「やってみよう！」と、子どもたちは泥で灯台作りを始めた。「何か、泥って重たいね」「重たいから、どんどん高くしよう！」と、普通の土と違う感触を味わいながら作る。しかし、泥は積み重ならず、平らに広がっていく。「何でかねえ」と、子どもたちは疑問をもつ。
- 「足で固めてもプニョプニョするよ」と、固まらないことが分かった。「これじゃ高くできない」「固まらないと大きくなれないもんね」そして、「水が多すぎると固まらないね」と、水分量の違いを発見した。「水もいるけど、入れすぎると泥になるよ」「たくさん土入れて、水入れて、固めていこう」と、固めることに気付き、友達とやりとりをして作り続ける。



### ● 場面3：大きな灯台を作る

- 周りを竹や段ボールで囲い、崩れないように固定し土台を作った。
- 自分たちで役割を分担し、囲った中に、土を入れる子ども、水を入れる子どもに分かれて遊びを進めた。
- 上に乗れる大きさになったが、子どもたちが乗ると崩れてしまう。

「しっかり固めないと崩れてくるよ」「押さえて押さえて！」と言い作る。どうやったら固まるのか、「押したらいい」「けど、スコップじゃ固まらない」「じゃあ、ぶつかる」と意見を出し合う。



### ● 場面4：試行錯誤しながら全身を使って作る

- 踏んだり背中押し付けたりして全身で固める。「土がザラザラする」「気持ちいいね」と、土の感触を全身で感じ、全身で押し付けて固めていく。
- 段ボール箱を使い、中に入ってジャンプしながら箱の底に全体重をかけて押し固めていく。「ジャンプしても崩れない！」と、土が固くなっていく変化に気付く。



### ✦ 考察

子どもたちが自分たちで遊びを展開する過程を、時間がかかっても大事にしたい。子どもたちは、灯台を作りたいという共通の目的をもって、「明日も続きをしたい」「どんどん大きくなっていく！」という過程を楽しむ体験を毎日積み重ねていた。また、子どもたちは試行錯誤をすることで日々の変化があったことに気づき、期待が膨らんでいった。遊びの過程を大事にすることで、子どもたちが自分たちで気づき、「分かった」と知る瞬間・体験を捉えることができた。

無断転載を禁ず。引用する場合は右記を必ず明記願います。「(C)公益財団法人 ソニー教育財団 ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」